

1.	③	11.	②	21.	②	31.	④	41.	②
2.	①	12.	③	22.	③	32.	①	42.	②
3.	①	13.	①	23.	①	33.	③	43.	①
4.	②	14.	①	24.	①	34.	④	44.	②
5.	①	15.	③	25.	③	35.	②	45.	①
6.	①	16.	①	26.	②	36.	③	46.	①
7.	④	17.	①	27.	②	37.	②	47.	④
8.	④	18.	④	28.	①	38.	④	48.	④
9.	②	19.	③	29.	④	39.	③	49.	③
10.	②	20.	①	30.	②	40.	①	50.	②

1.

解答 ③

【解説】

「アレルギー」という意味に最も近い英単語は③の **allergy** です。特定の物質に対して体が過剰に反応する状態を指します。**have an allergy to** ～ の形で「～に対するアレルギーがある」と表現します。他の選択肢について、① **analogy** は「類推、類似」、② **apology** は「謝罪」、④ **energy** は「エネルギー」を意味する名詞です。

◆補足：形容詞形は **allergic** で、**be allergic to** ～（～に対してアレルギーである）という形で頻繁に使われます。例えば、**"I'm allergic to pollen."**（私は花粉アレルギーです）のように使います。**allergen** は「アレルゲン、アレルギーの原因物質」を指します。

2.

解答 ①

【解説】

「～を解決する、整理する」という意味に最も近い英語表現は①の **sort out** です。問題や困難な状況をうまく処理して解決したり、散らかったものを分類して片付けたりすることを指します。例えば、「問題を解決する必要がある」は **We need to sort out the problem.** と表現します。他の選択肢について、② **show off** は「～を見せびらかす」、③ **rule out** は「（可能性など）を除外する」、④ **pass out** は「気絶する」という意味の句動詞です。

◆補足：**sort** は動詞で「～を分類する」、名詞で「種類」という意味です。**out** は「外へ」だけでなく、「完全に、すっかり」という意味も持ちます。そのため、**sort out** は「完全に分類しきる」というイメージから、「整理する」「解決する」という意味に発展しました。類義語の **solve** は主に数学の問

題や謎など、明確な答えがあるものを「解く」場合に使い、**organize** は物や情報を体系的に「整理・組織する」ことを指します。

3.

解答 ①

【解説】

英単語「**regular**」は、形容詞で「規則的な、定期的な」という意味を持つのが最も一般的です。時間や間隔が一定であること、あるいは決まったパターンに従っている様子を表します。例えば、「定期的な運動」は **regular exercise** と表現します。また、「普通の、標準的な」という意味や、レストランなどの「常連の」という意味で使われることもあります。選択肢②「責任がある」は **responsible**、③「似ている」は **similar**、④「特定の」は **specific** や **particular** という単語がそれぞれ対応します。

◆**補足**：**regular** の語源は、ラテン語の **regula**（定規、規則）に由来します。**regula** は **rule**（規則）と同じ語源です。このことから、「規則に従った」という中心的な意味が理解できます。対義語は **irregular**（不規則な）で、接頭辞 **ir-** が否定の意味を表します。副詞形は **regularly**（規則的に、定期的に）です。コロケーションとしては、**regular customer**（常連客）、**regular checkup**（定期検診）、**regular size**（普通サイズ）などがよく使われます。

4.

解答 ②

【解説】

「～するときはいつでも」という意味に最も近い英語表現は②の **whenever** です。時を表す接続詞で、主節の動作が、従属節の動作が行われるあらゆる時点で行われることを示します。例えば、「いつでも好きな時に来てください」は "**Please come whenever you like.**" と言います。他の選択肢について、① **whatever** は「～するものは何でも」、③ **wherever** は「～するところはどこでも」を意味する複合関係詞です。④ **however** は「しかしながら」という意味の接続副詞で、文脈が異なります。

◆**補足**：**whenever** は "**at any time when**" と同じ意味を表します。また、「一体いつ」と、時を強調して驚きやいらだちを表現する疑問詞としても使われます（例: **Whenever did you finish it?** 「一体いつそれを終えたんだ?」）。**-ever** が付く複合関係詞・副詞には他に **whoever**（～する人は誰でも）、**whichever**（～するものはどちらでも）などがあり、まとめて整理しておくとう理解が深まります。

5.

解答 ①

【解説】

「（病気や困難）を克服する」という意味に最も近い英語表現は①の **get over** です。病気から回復したり、失恋や失敗といった悪い経験から立ち直ったりすることを表します。例えば、「風邪が治る」は

get over a cold と表現します。他の選択肢について、② get through は「(困難な仕事など) をやり遂げる」、③ get along with は「～と仲良くやる」、④ get away with は「(悪事など) を罰せられずにうまく逃れる」という意味です。

◆補足：get over は、よりフォーマルな類義語 overcome とほぼ同じ意味で使えますが、get over の方が口語的です。物理的に「～を乗り越える」という意味でも使われます(例: get over a fence)。

6.

解答 ①

【解説】

「施設、設備」という意味に最も近い英単語は①の facility です。特定の活動のために使われる建物や場所、設備を指します。複数形の facilities で使われることが多いです。例えば、「スポーツ施設」は sports facilities と表現します。他の選択肢について、② faculty は「(大学の) 学部、教授陣」や「(心身の) 能力」、③ familiarity は「親しさ、精通」、④ fatality は「(事故などによる) 死亡者、宿命」を意味します。

◆補足：facility の語源は、「簡単」を意味するラテン語の facilis にあります。活動を「容易にする」もの、というイメージが核となっています。このため、才能や器用さといった意味で使われることもあります。一般的な「設備」を指す equipment とは異なり、facility は建物や場所全体を含む、より大きな概念です。

7.

解答 ④

【解説】

「残り」という意味に最も近い英単語は④の rest です。通常、the rest of ～ の形で「～の残り全部」を指します。例えば、「残りの人生」は the rest of my life と表現します。他の選択肢について、① risk は「危険、リスク」、② rust は「さび」、③ list は「一覧表、リスト」という意味の名詞です。

◆補足：rest には「休息、休憩」という意味もあり、こちらも非常に重要です。文脈によってどちらの意味かを判断する必要があります。「休息」の意味では "take a rest" (休憩する) のように使われます。動詞としても「休む」や「(～に) 頼る」(rest on ～) といった意味があります。the rest of ～ が主語になる場合、動詞の数は of の後ろに来る名詞に一致します(例: The rest of the apples are rotten.)。

8.

解答 ④

【解説】

英単語「**complaint**」は、「不平、苦情」という意味の名詞です。不満や不快感を表明することを指します。例えば、「苦情を言う」は **make a complaint** と表現します。選択肢①「完成」は **completion**、②「複雑さ」は **complexity** です。③「褒め言葉、賛辞」は **compliment** で、**complaint** とは発音が非常に似ていますが意味は正反対なので、混同しないように注意が必要です。

◆補足：**complaint** は、動詞 **complain**（不平を言う）の名詞形です。**complain about** ～（～について不平を言う）の形で使われることが多いです。また、**complaint** は医療の文脈では「(病気の) 訴え、症状」という意味でも使われます。例えば、"**The patient's main complaint was a headache.**"（その患者の主な訴えは頭痛だった）のように使います。

9.

解答 ②

【解説】

英語表現「**take action**」は、「行動を起こす、措置を講じる」という意味です。問題解決などのために、具体的な行動を開始することを指します。例えば、「政府はすぐに行動を起こす必要がある」のように使います。選択肢①「休憩をとる」は **take a break**、③「席に着く」は **take a seat**、④「危険を冒す」は **take a risk**（または **take risks**）という表現が対応します。

◆補足：**action** は「行動、活動」という意味の名詞です。**take action to do**（～するため行動を起こす）や **take action against** ～（～に対して措置を講じる）といった形でよく使われます。類義語に **take measures**（対策を講じる）がありますが、こちらはより具体的で計画的な「措置」を指すニュアンスが強いです。

10.

解答 ②

【解説】

英単語「**active**」は、「活動的な、活発な」という意味の形容詞です。人や物事がエネルギーに動いている様子を表します。例えば、「活動的な生活を送る」は **lead an active life** と表現します。選択肢①「退屈な」は **boring**、③「受動的な」は **passive** で、**active** の明確な対義語です。④「注意深い」は **careful** であり、いずれも文脈に合いません。

◆補足：**active** の名詞形は **activity**（活動）や **action**（行動）です。動詞形は **activate**（～を活性化させる）です。語源はラテン語の **agere**（行う、動かす）に由来し、**actor**（俳優）や **agent**（代理人）などと同じ語源を持ちます。「動いている」という核のイメージを持つと理解しやすいです。火山が「活動中」であることも "**an active volcano**" と表現するなど、人以外にも幅広く使われます。

11.

解答 ②

【解説】

英単語「actual」は、「実際の、現実の」という意味の形容詞です。想像や理論ではなく、事実として存在するものを指します。名詞の前に置いて使われます。例えば、「実際の費用」は **the actual cost** と表現します。選択肢①「追加の」は **additional**、③「年一回の」は **annual**、④「人工的な」は **artificial** が対応する単語です。

◆補足：副詞形は **actually** で、「実は、実際には」という意味で会話で頻繁に使われます。よく似た単語に **real** がありますが、**actual** は「推測や噂などに対して、事実としての」という対比のニュアンスが強いのに対し、**real** は「偽物や想像上のものに対して、本物の」というニュアンスで使われることが多いです。

12.

解答 ③

【解説】

「有利な点」や「利点」という意味に最も近い英単語は③の **advantage** です。競争や比較において、他よりも良い位置にいることや、優れた条件を持っていることを指します。例えば、「経験が豊富なことは、この仕事において大きな利点だ」のように使います。他の選択肢について、① **department** は「(会社の) 部、課、(大学の) 学部」などを意味します。② **appointment** は、医者や美容院などの「(時間と場所を決めた) 予約、約束」や「任命」といった意味で使われます。④ **instrument** は「楽器」や「(精密な) 器具、道具」を指す単語です。

◆補足：**advantage** の対義語は **disadvantage** (不利な点、欠点) です。よく使われる表現に "**take advantage of ~**" があり、これには「~ (機会など) をうまく利用する」というポジティブな意味と、「~ (人の弱みなど) につけこむ、悪用する」というネガティブな意味の両方があるので文脈に注意が必要です。また、"**have an advantage over ~**" で「~ に対して有利である」という表現も頻出します。語源は、古フランス語の **avant** (前に) に由来しており、「前にいること」が「有利」という核の意味につながっています。

13.

解答 ①

【解説】

「~を受け入れる」という意味に最も近い英単語は①の **accept** です。招待や申し出、意見などを同意して受け取ることを指します。例えば、「彼の招待を受け入れた」は **I accepted his invitation.** と表現します。他の選択肢は、② **except** が前置詞で「~を除いて」、③ **expect** が「~を期待する」、④ **attempt** が「~を試みる」という意味で、スペルや発音が似ているため注意が必要です。

◆補足：**accept** の名詞形は **acceptance** (受諾、受け入れ)、形容詞形は **acceptable** (受け入れられる、申し分のない) です。対義語は **refuse** (~を断る) や **reject** (~を拒絶する) です。語源はラテン語の **ad-** (~へ) + **capere** (つかむ) で、「自分の方へつかみ取る」というイメージが「受け入れる」という意味につながっています。

14.

解答 ①

【解説】

「～を取り除く、除去する」という意味に最も近い英単語は①の **remove** です。ある場所から物や汚れ、障害物などを物理的にどかしたり、抽象的なものを取り去ったりする際に広く使われます。例えば、「壁からポスターを取り除く」のように用います。他の選択肢について、② **reduce** は「～（数量・程度など）を減らす」、③ **refuse** は「～を断る、拒否する」、④ **regret** は「～を後悔する」という意味の動詞です。

◆**補足**：**remove** の語源は、ラテン語の **re-**（再び、後ろへ）＋**movere**（動かす）で、「後ろへ動かす」というのが核となるイメージです。類義語に **get rid of** がありますが、これはより口語的な表現で、「厄介なものを処分する」というニュアンスが強いです。**eliminate** は、完全に「根絶する、排除する」という意味で、より強調的な表現です。名詞形は **removal**（除去）です。

15.

解答 ③

【解説】

英単語「**sore**」は、形容詞として「（炎症や筋肉痛などでズキズキ）痛い」という意味を持ちます。切り傷のような鋭い痛み（**sharp pain**）とは異なり、触ると痛むような状態を指します。例えば、「喉が痛い」は **a sore throat**、「筋肉痛」は **sore muscles** と表現します。選択肢①「酸っぱい」は **sour**、②「確信して」は **sure**、④「痛ましい、悲しい」は **sorrowful** です。

◆**補足**：**sore** は名詞として「（ただれや）痛い箇所」という意味でも使われます。「**a sore loser**」は「負け惜しみを言う人」という意味の面白い慣用句です。**ache** も「痛む」という意味の動詞ですが、**sore** は主に形容詞として使われる点が異なります。

16.

解答 ①

【解説】

英単語「**checkup**」は、「健康診断、定期検診」という意味の名詞です。病気の有無や健康状態を調べるための検査を指します。例えば、「年に一度健康診断を受ける」は **get a checkup once a year** と表現します。選択肢②「小切手帳」は **checkbook**、③「会計係」は **cashier**、④「課題、挑戦」は **challenge** であり、意味が異なります。

◆**補足**：**checkup** は、動詞 **check** と副詞 **up** が組み合わさってできた複合名詞です。特に医療の文脈で使われることが多く、**medical checkup** や **dental checkup**（歯科検診）のように、何の検診かを

明確にすることもあります。似た表現に **examination (exam)** がありますが、こちらはより広範な「検査、試験」を指します。

17.

解答 ①

【解説】

英単語「**badly**」は、形容詞 **bad** の副詞形で、「ひどく、下手に」という意味です。物事の質が低いことや、やり方がうまくないことを表します。例えば、「彼はひどく歌が下手だ」は **He sings badly.** と表現します。選択肢②「ほとんど～ない」は **hardly**、④「広く」は **widely** です。

◆補足：**badly** には「非常に、とても」という意味もあり、特に **need** や **want** といった動詞と共に使われることが多いです。例えば、**I want to see you badly.** は「君にひどく会いたい」という意味になります。文脈によって「下手に」なのか「非常に」なのかを判断する必要があります。

18.

解答 ④

【解説】

英語表現「**prevent A from doing**」は、「A が～するのを妨げる、防ぐ、させない」という意味です。何かが起こらないように、事前に行動することを表します。例えば、「悪天候が私たちが外出するのを妨げた」は **The bad weather prevented us from going out.** と表現します。選択肢①「A が～するのを許す」は **allow A to do**、②「A が～するように期待する」は **expect A to do**、③「A が～するように励ます」は **encourage A to do** などが対応する表現です。

◆補足：**prevent A from doing** の形をとる動詞は「妨害・禁止」系の動詞と呼ばれ、他にも **stop**, **keep**, **prohibit**, **discourage** などが多くあります。**from** の後には動名詞が来るのがポイントです。名詞形は **prevention**（予防、防止）で、"**Prevention is better than cure.**"（治療より予防がまさる）ということわざは有名です。語源はラテン語の **prae-**（前に）+ **venire**（来る）で、「先に来て邪魔をする」というのが核となるイメージです。

19.

解答 ③

【解説】

英語表現「**on the whole**」は、「概して、全体的に見て」という意味の副詞句です。細かい点を除いて、全体としての印象や評価を述べる際に使われます。例えば、「概して、その映画は良かった」は **On the whole, the movie was good.** と表現します。選択肢①「全体としてではなく」は意味が逆です。②「一方で」は **on the other hand**、④「偶然に」は **by chance** などが対応します。

◆補足：類義語として **in general** や **generally speaking** などがあります。これらはほぼ同じ意味で使えますが、**on the whole** は、いくつかの要素を考慮した上で「全体をならしてみると」というニュアンスがやや強いです。**whole** は「全体の」という意味の形容詞、または「全体」という意味の名詞で、この表現では名詞として使われています。

20.

解答 ①

【解説】

「(偶然に) ～を発見する」という意味に最も近い英単語は①の **discover** です。それまで存在はしていたものの、知られていなかった物事や事実を見つけ出すことを指します。例えば、「新しい惑星を発見する」のように使います。他の選択肢について、② **invent** は、これまで存在しなかったものを新たに「発明する、創造する」ことで、**discover** とは明確に区別されます。③ **cover** は「～を覆う」、④ **recover** は「～を回復する、取り戻す」という意味の動詞です。

◆補足：**discover** は、接頭辞 **dis-**（分離、反対）と動詞 **cover**（覆う）から成り立っています。「覆いを取り去る」というのが元の意味で、そこから「隠されていたものを見つけ出す」→「発見する」という意味になりました。名詞形は **discovery**（発見）です。コロンブスがアメリカ大陸を「発見した」のは **discover** ですが、エジソンが電球を「発明した」のは **invent** です。この違いをしっかりと理解することが重要です。

21.

解答 ②

【解説】

英単語「**widely**」は、「広く、広範囲にわたって」という意味の副詞です。地理的な広がりだけでなく、意見や習慣などが多くの人々に受け入れられている様子を表すのにも使われます。例えば、「そのニュースは広く報じられた」は **The news was widely reported.** と表現します。選択肢①「賢く」は **wisely**、③「野生的に、荒々しく」は **wildly**、④「奇妙に」は **weirdly** が対応する単語です。

◆補足：**widely** は、形容詞 **wide**（広い）から派生した副詞です。**It is widely believed that ...**（～は広く信じられている）や **widely used**（広く使われている）のように、受け身の動詞を修飾する形で頻繁に使われます。名詞形は **width**（広さ）、動詞形は **widen**（～を広げる、広がる）です。

22.

解答 ③

【解説】

英語表現「**when it comes to** ～」は、「～のこととなると、～という話になれば」という意味の熟語です。特定の話題について話し始める際に、その話題を導入するために使われます。**to** は前置詞なの

で、後ろには名詞や動名詞が来ます。例えば、「料理のこととなると、彼は誰にも負けない」のように使います。選択肢①「～から判断すると」は **judging from** ～、②「～を要約すると」は **to sum up**、④「～と比較すると」は **compared to** ～ が対応します。

◆補足：この表現は、会話や文章で話題を転換したり、特定の分野における専門性や特徴を強調したりするのに非常に便利です。例えば "He is a great athlete, but when it comes to studying, he is not so good." (彼は素晴らしい運動選手だが、勉強のこととなるとあまり得意ではない) のように、対比を示す際にも効果的に使えます。

23.

解答 ①

【解説】

「反対の、向かい側の」という意味に最も近い英単語は①の **opposite** です。意味が正反対であることや、ある場所から見て反対側に位置していることを示します。例えば、「私の意見は彼のとは正反対だ」のように使います。他の選択肢について、② **appropriate** は「適切な」、③ **absolute** は「絶対的な」、④ **accurate** は「正確な」という意味の形容詞です。

◆補足：**opposite** は、前置詞として「～の向かいに」(He sat opposite me.) や、名詞として「正反対の人・物」(She is the opposite of her sister.) としても使われます。語源はラテン語の **ob-** (反対側に) + **ponere** (置く) で、「反対側に置かれた」というイメージが核となっています。

24.

解答 ①

【解説】

英単語「**physically**」は、「身体的に、肉体的に」という意味の副詞です。心や精神面と対比して、体に関することを表現する際に使われます。例えば、「肉体的に疲れている」は **physically tired** と言います。選択肢②「精神的に」は **mentally**、③「社会的に」は **socially**、④「経済的に」は **economically** となり、それぞれ異なる意味を持つ副詞です。これら是对義語や関連語としてセットで覚えると効果的です。

◆補足：**physically** は、形容詞 **physical** (身体の、物質の) に副詞を作る接尾辞 **-ly** が付いた形です。**physical** の語源は、ギリシャ語の **physikos** (自然の) に由来し、**physics** (物理学) とも関連があります。コロケーションとしては、**physically demanding** (肉体的にきつい)、**physically fit** (健康で、体調が良い)、**physically impossible** (物理的に不可能) などがよく使われます。精神面を表す **mentally** との対比で使われることが非常に多いです。

25.

解答 ③

【解説】

英語表現「contrary to ~」は、「～とは反対に、～に反して」という意味です。一般的な考え、予想、または指示などに反する事柄を導入する際に使われます。例えば、「予想に反して、試験はとても簡単だった」は **Contrary to expectations, the exam was very easy.** と表現します。選択肢①「～に加えて」は **in addition to ~**、②「～の代わりに」は **instead of ~**、④「～のせいで」は **because of ~** などが対応します。

◆補足：contrary はラテン語の **contra**（～に対して）を語源とし、「反対の」という意味を持ちます。このことから、`contrary to ~` で「～に対して反対の立場で」という核のイメージが理解できます。似た単語に **contradict**（～に反論する、～と矛盾する）があり、同じ語源を共有しています。

26.

解答 ②

【解説】

英単語「cancer」は、病気の種類である「がん」を指す名詞です。体の細胞が異常に増殖する病気の総称です。例えば、「肺がん」は **lung cancer**、「皮膚がん」は **skin cancer** のように表現します。選択肢①「候補者」は **candidate**、③「首都、資本」は **capital**、④「炭素」は **carbon** であり、意味が異なります。

◆補足：Cancer と大文字で始めると、星座の「かに座」や、そこに生まれた人を指すこともあります。これは、がん細胞の広がり方がカニの足のように見えることから、ラテン語の **cancer**（カニ）が病名として使われるようになったことに由来します。

27.

解答 ②

【解説】

「～を守る、防御する」という意味に最も近い英単語は②の **defend** です。攻撃や非難から、人や国、考えなどを守ることを指します。例えば、「自国を守る」は **defend one's country** と表現します。他の選択肢について、① **offend** は「～の気分を害する、～を怒らせる」、③ **depend (on ~)** は「(～に) 頼る」、④ **pretend** は「～のふりをする」という意味の動詞です。

◆補足：名詞形は **defense**（防御、弁護）、形容詞形は **defensive**（防御的な）です。対義語は **attack**（攻撃する）や **offend**（攻撃する、気分を害する）です。スポーツの文脈では「ディフェンス」として日本語にもなっていますね。語源はラテン語の **de-**（離れて）+ **fendere**（打つ）で、「打ち払って離れさせる」というイメージが「守る」という意味につながっています。

28.

解答 ①

【解説】

「～を指し示す、示す」という意味に最も近い英単語は①の **indicate** です。物理的に指でさすことや、データなどが特定の事実や傾向を示唆することを表します。例えば、「調査は人々の意見の変化を示している」のように使います。他の選択肢について、② **include** は「～を含む」、③ **invade** は「～に侵入する、～を侵害する」、④ **inherit** は「～を相続する、受け継ぐ」という意味の動詞です。

◆**補足**：**indicate** の名詞形は **indication**（兆候、しるし）、指示する人や物は **indicator**（指標）です。語源はラテン語の **in-**（中に、～の方へ）＋**dicere**（言う）で、「指し示して言う」というのが核となるイメージです。類義語の **show** は最も一般的な「見せる」ですが、**indicate** はより客観的な事実やデータを基に「示す」というニュアンスが強いです。

29.

解答 ④

【解説】

「～を切り替える」という意味に最も近い英単語は④の **switch** です。一方の状態や物事から、別のものへと変更することを指します。例えば、「テレビのチャンネルを切り替える」のように使います。他の選択肢について、① **stretch** は「～を伸ばす」、② **scratch** は「～をひっかく」、③ **search** は「～を探す」という意味の動詞です。

◆**補足**：**switch** は名詞として「(電気の) スイッチ」という意味もあります。動詞の **switch** は、**switch A to B** (A を B に切り替える) や **switch from A to B** (A から B に切り替える) といった形でよく使われます。類義語の **change** よりも、二つの明確な選択肢の間での「切り替え」というニュアンスが強いです。

30.

解答 ②

【解説】

「～に助言する、忠告する」という意味に最も近い英単語は②の **advise** です。専門的な知識や経験に基づいて、どうすべきか意見を述べることを指します。例えば、「医者には彼に運動するよう助言した」のように使います。他の選択肢について、① **devise** は「～を考案する、工夫する」、③ **revise** は「～を修正する、改訂する」、④ **supervise** は「～を監督する、管理する」という意味の動詞です。

◆**補足**：**advise** は動詞で、スペルがよく似た **advice** は名詞で「助言、忠告」です。**advice** は不可算名詞なので、**a piece of advice** のように数えます。発音も異なり、**advise** は /əd'vaɪz/ (ズ)、**advice** は /əd'vaɪs/ (ス) となります。この動詞と名詞の区別は非常に重要です。**advise O to do** (O に～するよう助言する) の形も頻出です。

31.

解答 ④

【解説】

「～を含む、～が入っている」という意味に最も近い英単語は④の **contain** です。容器の中に何かが入っている状態や、物質に特定の成分が含まれている状態を表します。例えば、「この箱には古い本が入っている」のように使います。他の選択肢について、① **complain** は「不平を言う」、② **combine** は「～を結合させる」、③ **concern** は「～に関係する、～を心配させる」という意味の動詞です。

◆**補足**：名詞形は **container**（容器、入れ物）です。類義語の **include** も「～を含む」という意味ですが、**contain** が「全体の中に部分として入っている」という物理的な包含を表すのに対し、**include** は「全体を構成する要素の一つとして数え上げる」という、より抽象的な包含を表すことが多いです。語源はラテン語の **con-**（共に）＋**tenere**（保つ）で、「一緒に保つ」というイメージが「含む」という意味につながっています。

32.

解答 ①

【解説】

「～に感謝する」という意味に最も近い英単語は①の **appreciate** です。**thank you** よりもフォーマルで、相手の行為の価値を理解し、ありがたく思うという気持ちを表します。例えば、「ご親切に感謝します」は **I appreciate your kindness.** と表現します。他の選択肢について、② **approach** は「～に近づく」、③ **approve** は「～に賛成する、～を承認する」、④ **apologize** は「謝罪する」という意味の動詞です。

◆**補足**：**appreciate** には他に「～を正しく評価する、～の良さがわかる」（例：**appreciate art** 美術を鑑賞する）や「～の価格が上がる」といった意味もあります。名詞形は **appreciation**（感謝、鑑賞、評価）です。語源はラテン語の **ad-**（～へ）＋**pretium**（価格）で、「～に価格をつける」ことから「価値を認める」という意味に発展しました。

33.

解答 ③

【解説】

英語表現「**in the long run**」は、「長い目で見れば、長期的には、結局は」という意味です。目先の状況ではなく、遠い将来において最終的にどうなるかを述べる際に使われます。例えば、「正直は長い目で見れば報われる」は **Honesty pays in the long run.** と表現します。選択肢①「短期間では」は **in the short run** で、明確な対義語です。②「間に合って」は **in time**、④「要するに」は **in short** が対応します。

◆**補足**：**run** は「走る」という意味が基本ですが、この表現では「連続、期間」といった意味で使われています。**long run** で「長期間」となります。類義語の **eventually** も「最終的には、結局は」という意味ですが、**in the long run** はより長い時間軸を意識した表現です。

34.

解答 ④

【解説】

英語表現「encourage A to do」は、「A が～するように励ます、勇気づける」または「～するように促す」という意味です。相手が何かをしようとする際に、それを支持し、自信を与えるような働きかけを表します。この表現も allow A to do と同じく第五文型 (S+V+O+C) をとります。例えば、「両親は私が留学するように励ましてくれた」のように使います。選択肢①「A が～するのを妨げる」は prevent A from doing、②「A に～するように命令する」は order A to do、③「A に～しないように警告する」は warn A not to do などが対応する表現となり、いずれも意味が異なります。

◆補足：encourage の中には "courage" (勇気) という単語が含まれています。接頭辞 en- は「～の中に」や「～の状態にする」という意味を持ちます。つまり、en + courage で「勇気 (courage) の中に入れる」→「勇気づける」と語源から意味を推測できます。対義語は discourage A from doing で、「A が～するのをがっかりさせてやめさせる、思いとどまらせる」という意味になります。名詞形は encouragement (激励、奨励) です。

35.

解答 ②

【解説】

「呼吸する」という意味に最も近い英単語は②の breathe です。肺に空気を取り入れたり出したりする行為を指します。例えば、「深呼吸する」は breathe deeply と表現します。他の選択肢について、① bleed は「出血する」、③ breed は「(動物が子) を産む、～を繁殖させる」、④ bless は「～を祝福する」という意味の動詞です。

◆補足：動詞の breathe /bri:ð/ (ブリーズ) と、名詞の breath /bre:θ/ (ブレス、「息」) は、スペルと発音の両方で区別することが非常に重要です。動詞には最後に e が付き、発音も長くなります。take a deep breath (深呼吸をする) や be out of breath (息が切れている) など、名詞 breath を使った表現も頻出です。

36.

解答 ③

【解説】

英単語「institute」は、名詞として「研究所、協会、学会」といった、特定の目的 (特に研究や教育) を持つ組織を指します。例えば、「がん研究所」は a cancer institute と表現します。選択肢①「態度」は attitude、②「代役、代用品」は substitute、④「才能、適性」は aptitude であり、意味が異なります。

◆補足：institute は動詞としても使われ、その場合は「(制度や法律などを) 設ける、制定する」という、やや硬い意味になります。名詞形は institution で、「機関、施設、制度、しきたり」など、より広い意味で使われます。例えば、大学や病院、結婚制度なども institution と呼ばれます。語源はラテン語の in- (中に) + statuere (建てる、置く) で、「内部に設立するもの」というのが核となるイメージです。

37.

解答 ②

【解説】

英単語「expose」は、「～を(危険や光などに) さらす、触れさせる」という意味の動詞です。覆いのない状態にして、何らかの影響を受けるようにすることを指します。熟語 "expose A to B" (A を B にさらす) の形で使われることが非常に多いです。また、「～を暴露する、あばく」という意味もあります。選択肢①「～を提案する」は propose、③「～に反対する」は oppose、④「～を作曲する、構成する」は compose であり、意味が異なります。

◆補足：expose の語源は、ラテン語の ex- (外に) + ponere (置く) で、「外に置く」というのが核となるイメージです。これが「覆いのない状態にする」→「さらす」や「暴露する」という意味につながっています。名詞形は exposure (さらすこと、暴露) です。例えば "exposure to the sun" (日光にさらされること) や "media exposure" (メディアへの露出) のように使われます。

38.

解答 ④

【解説】

「～にやる気を起こさせる、～の動機となる」という意味に最も近い英単語は④の motivate です。人がある行動を起こすための原因や意欲を与えることを意味します。第五文型をとり、motivate A to do の形で「A が～するようやる気を起こさせる」と使われることも多いです。他の選択肢について、① hesitate は「ためらう、躊躇する」、② operate は「(機械などを) 操作する」や「手術する」、③ translate は「翻訳する」といった意味を持つ動詞です。

◆補足：motivate の名詞形は motivation (やる気、動機付け) で、教育やビジネスの分野で非常に重要な概念です。形容詞形は motivated (やる気のある) と motivating (やる気を起こさせるような) があります。語源的には、motive (動機) という単語から来ており、motive はラテン語の movere (動かす) に由来します。つまり、「(人の心を) 動かす」というのがこの単語の核となるイメージです。encourage と似ていますが、encourage が「勇気づける」という支援的なニュアンスなのに対し、motivate は行動の根本的な「動機を与える」という、より内面的な働きかけを指すことが多いです。

39.

解答 ③

【解説】

英単語「instead」は、「その代わりに」という意味の副詞です。先に出てきた事柄の代わりとなる選択肢を示す際に使われます。instead of ～ の形で「～の代わりに」という前置詞句として使われることも非常に多いです。例えば、「私たちはバスの代わりに電車で行った」は We went by train instead of by bus. と表現します。選択肢①「ほとんど」は almost、②「とにかく」は anyway、④「おそらく」は probably が対応する単語です。

◆補足：instead は、古英語の in sted (in place、～の場所で) に由来します。文字通り「あるものの場所に入って」というイメージが、「その代わりに」という意味につながっています。この成り立ちを理解すると、instead of の of が「～の」という所有・所属を表すこととも自然に結びつきます。

40.

解答 ①

【解説】

「(主義・計画など)を堅持する、～をやり通す」という意味に最も近い英語表現は①の stick to です。困難があっても方針や決定を変えずに守り続けることを表します。例えば、「自分の計画を最後までやり通すべきだ」のように使います。他の選択肢について、② lead to は「～(という結果)につながる」、③ object to は「～に反対する」、④ reply to は「～に返事をする」という意味の表現です。

◆補足：stick は動詞で「～を突き刺す、貼り付ける」という意味です。そこから比喩的に「くっついて離れない」→「固執する、堅持する」という意味に発展しました。名詞としては「棒、杖」という意味があります。類義語の adhere to ～ も「～を固守する」という意味ですが、stick to ～ よりもフォーマルな表現です。

41.

解答 ②

【解説】

英単語「moreover」は、「その上、さらに」という意味の接続副詞です。すで述べた事柄に、さらに情報を付け加える際に使われる、ややフォーマルな言葉です。例えば、「そのホテルは高価で、その上サービスも悪かった」のように使います。選択肢①「しかしながら」は however、③「それにもかかわらず」は nevertheless、④「したがって」は therefore が対応します。これらは文と文の関係を示す重要な単語なので、違いをしっかりと理解しましょう。

◆補足：moreover は、同じく「追加」を表す in addition や furthermore と似ていますが、moreover は前の事柄を補強する、より重要性の高い情報を付け加えるというニュアンスがあります。文頭で使われることが多く、後ろにコンマを伴います。

42.

解答 ②

【解説】

英語表現「on account of 〜」は、「〜が理由で、〜のために」という意味です。because of 〜 と同じく原因・理由を表しますが、よりフォーマルな響きがあります。例えば、「悪天候のために試合は中止された」は The game was canceled on account of the bad weather. と表現します。選択肢①「〜を考慮して」は taking 〜 into account、③「〜の代わりに」は on behalf of 〜 や instead of 〜、④「〜にもかかわらず」は in spite of 〜 などが対応します。

◆補足：この表現の account は「理由、根拠」という意味で使われています。同じ意味の表現として、due to 〜 や owing to 〜 がありますが、これらも on account of 〜 と同様に、because of 〜 より硬い文脈で使われる傾向があります。

43.

解答 ①

【解説】

「〜する（経済的・時間的な）余裕がある」という意味に最も近い英単語は①の afford です。主に can や be able to と共に使われ、can afford to do（〜する余裕がある）や can afford A（A を手に入れる余裕がある）という形で用いられます。通常、否定文や疑問文で使われることが多いのが特徴です。他の選択肢について、② offer は「〜を提供する、申し出る」、③ effort は名詞で「努力」、④ avoid は「〜を避ける」という意味です。

◆補足：afford は「(余裕があつて) 〜できる」という可能性を表すため、助動詞 can や be able to とセットで使われるのが基本です。形容詞形は affordable で、「手頃な価格の」という意味になり、製品の価格について説明する際によく使われる重要単語です（例: an affordable price）。

44.

解答 ②

【解説】

英語表現「seem to do」は、「〜するようだ、〜するように思われる」という意味です。断定を避け、見た目や状況から判断した主観的な推量を表す際に使われます。例えば、「彼はその知らせに驚いているようだ」は He seems to be surprised at the news. と表現できます。選択肢①「〜する傾向がある」は tend to do、③「〜することに成功する」は succeed in doing や manage to do、④「〜することを切望する」は long to do などが対応する表現となり、意味が異なります。

◆補足：seem は "It seems that S + V" の形で書き換えることができます。例えば、"He seems to be happy." は "It seems that he is happy." とほぼ同じ意味です。主語を It にすることで、より客観的なニュアンスを出すことができます。また、"seem + 形容詞"（〜のように見える）や "seem + 名詞"（〜のように思える）の形も頻繁に使われます（例: You seem tired.）。類義語の appear to do も「〜

するようだ」と訳せますが、**seem** が主観的な印象を表すのに対し、**appear** はより客観的な外見に基づいた判断を指すことが多いです。

45.

解答 ①

【解説】

「～を供給する、提供する」という意味に最も近い英単語は①の **supply** です。必要な物資やサービスなどを与えることを指します。熟語 **supply A with B** または **supply B to A** (A に B を供給する) の形で使われることが非常に多いです。他の選択肢について、② **reply** は「返事をする」、③ **apply** (for ～) は「(～に) 申し込む、応募する」、④ **imply** は「～をほのめかす、暗に意味する」という意味の動詞です。

◆**補足**：**supply** は名詞としても使われ、「供給、供給品」といった意味になります。経済学の分野では、需要と供給 (**demand and supply**) という基本的な概念で登場します。この対義語の関係は必ず覚えておきましょう。語源はラテン語の **sub-** (下に) + **plere** (満たす) で、「下から満たして補う」というイメージが「供給する」という意味につながっています。

46.

解答 ①

【解説】

「～を理解する、解決する」という意味に最も近い英語表現は①の **figure out** です。よく考えた末に、問題の答えや人の意図などを突き止めるというニュアンスがあります。例えば、「その問題の解き方が分からない」は **I can't figure out how to solve the problem.** と表現します。他の選択肢について、② **look up** は「(辞書などで) ～を調べる」、③ **carry out** は「(計画など) を実行する」、④ **point out** は「～を指摘する」という意味の句動詞です。

◆**補足**：**figure out** は **understand** よりも、思考のプロセスを経て理解に至るという点を強調します。また、**make out** も「～を理解する」という意味で使われますが、こちらは見えにくいものや聞き取りにくいものを何とか理解するというニュアンスが強いです。**figure** は名詞で「数字、姿、図」などの意味を持つ多義語です。

47.

解答 ④

【解説】

「(運動をしていて) 健康で」という意味に最も近い英単語は④の **fit** です。特に、定期的な運動によって体が引き締まり、体力がある状態を指します。例えば、「健康を維持するために」は **to keep fit** と表現します。他の選択肢について、① **fine** や ② **well** は、病気ではない、気分が良いといった一時的

な状態を指すことが多いです。③ **healthy** は、病気ではないという全般的な健康状態を表し、必ずしも運動による体力の維持を含意しません。

◆**補足**：**fit** は形容詞だけでなく、動詞として「(サイズや形が) 合う」、名詞として「(衣服などの) 合い具合」という意味も持ちます。フィットネス (**fitness**) という言葉の元になっていることから、「運動による健康」という核となるイメージが掴めるでしょう。

48.

解答 ④

【解説】

「特定の」という意味に最も近い英単語は④の **particular** です。多くのものの中から、一つを特に選び出して指す際に使われます。例えば、「何か特定の理由はありますか」は **Is there any particular reason?** と表現します。他の選択肢について、① **popular** は「人気のある」、② **punctual** は「時間を守る」、③ **potential** は「潜在的な、可能性を秘めた」という意味の形容詞です。

◆**補足**：**particular** は、「好みがるさい、気難しい」という意味で使われることもあります（例: **be particular about food** 食にうるさい）。副詞形は **particularly** で、「特に、とりわけ」という意味です。熟語 **in particular** は **particularly** と同じ意味で、文頭、文中、文末に置かれます。類義語の **specific** も「特定の、明確な」という意味ですが、**particular** が数ある中から「一つを指す」ニュアンスなのに対し、**specific** は「曖昧でなく、はっきりと限定された」というニュアンスが強いです。

49.

解答 ③

【解説】

「A が～するのを可能にする」という意味に最も近い英語表現は③の **enable A to do** です。A（人や物）に、何かをするための能力や手段、機会を与えることを示します。例えば、「インターネットは私たちが世界中の人々と繋がることを可能にする」のように使います。他の選択肢について、① **force A to do** は「A に～することを強制する」、② **forbid A to do** は「A が～するのを禁じる」、④ **advise A to do** は「A に～するよう助言する」という意味の表現です。

◆**補足**：**enable** は、接頭辞 **en-**（～にする）と形容詞 **able**（できる）から成り立っており、「できるようにする」というのが元の意味です。**allow A to do**（A が～するのを許す）と似ていますが、**allow** が主に「許可」を表すのに対し、**enable** は「能力や手段を与える」というニュアンスが強いのが特徴です。

50.

解答 ②

【解説】

英語表現「**generally speaking**」は、「一般的に言えば、概して」という意味の副詞句です。文頭や文末に置かれ、例外はあるかもしれないが、大まかな傾向として述べるときに使われます。例えば、「一般的に言えば、日本の夏は蒸し暑い」のように使います。選択肢①「正直に言えば」は **frankly speaking**、③「厳密に言えば」は **strictly speaking** という、同じく独立分詞構文の慣用表現です。④「残念ながら」は **sadly** や **unfortunately** といった副詞が対応します。

◆**補足**：これは独立分詞構文と呼ばれる文法項目の一つで、分詞構文の意味上の主語が、主節の主語と一致しない場合に使われます。**generally speaking** の意味上の主語は **we** や **you** といった不特定の人々です。他にも、**judging from** ～（～から判断すると）や **talking of** ～（～と言え）など、覚えておくべき慣用表現がいくつかあります。類義語として **in general** や **on the whole** も「概して」という意味で使われます。
